

【背景と目指す姿】

- 現在、畑を主体にほうれんそうとこまつなを栽培しているが、今後は、**ほ場整備事業が終了している水田への作付を拡大**する。
- 栽培面積の割合は、ほうれんそうとこまつなで5対5を目標とし、年間栽培の中で労働時間の均一化をはかるため新たな品目としてねぎを導入した。
- 栽培は、**機械化による省力化と機械を活用したマニュアル化**を進め、従業員等の個別技術に頼らない均一的な栽培技術を確保する。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):1ha → 目標(令和2(2020)年度):10ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇用者等への指示ができる従業員育成に向けた栽培講習会等への参加 ・農地中間管理事業の活用による、まとまりのある農地の確保
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・高性能機械の導入による省力化と作業品質の安定化 ・分社化等で同様な生産組織が生じた際の機械作業や出荷調整作業の受託による効率化 ・ハローワークや求人広告、すでに勤めている雇用者の口コミなどによる労働力の確保
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・状況変化に対応できる取引を行うための実需者とのコミュニケーションの確保 ・生産量の増加に対応した契約の見直し ・商談会への参加や加工・業務業者の動向把握による新たな販路の検討 ・消費者ニーズやパッケージ等の動向を把握し、新品種等商品づくりに反映



露地こまつな



こまつなの播種作業